

少子高齢化社会に対する誤解

一般サンプルを用いた調査による現実と推定値との差

○ 群馬医療福祉大学大学院 氏名 大高 明浩 (009119)

大野 俊和 (群馬医療福祉大学・009118)

キーワード：高齢者クイズ、エイジング、社会不安

1. 研究目的

今日、日本は少子高齢化の問題に直面している。この問題の解決を考えるにあたって、最初にすべきことは事実の正確な認識・把握であろう。しかしながら、人々が少子化や高齢化問題の多くの点について誤解していることが、いくつかの研究によって指摘されている。たとえば、丸山・小田(2008)は、Palmore(1977, 1988)のFacts on Aging Quiz (FAQ)を発展させ、高齢者だけでなく高齢化社会に関する内容を集めた、三者択一方式の「高齢化社会クイズ」を用いて、多くの大学生が一貫して間違える高齢化社会に関する誤解があることを明らかにしている。

本研究の目的は、丸山・小田(2008)の実施した「高齢化社会クイズ」の項目内容や手続きを修正した調査を探索的に実施し、一般サンプルを用いて少子高齢化社会に関する誤解の詳細や構造について検討することである。

2. 研究の視点および方法

インターネットでの質問紙調査を広く一般サンプル600人を対象に実施した。具体的には、ネット調査会社を通じ、日本の社会統計に関する推定の研究と題して、丸山・小田(2008)の高齢化社会クイズを参考に、13項目の「高齢化・高齢者問題」と3項目の「核家族化・少子化問題」の事実認識について尋ねた16項目と、探索的に新たに日本の現在の失業率や殺人率といった「社会問題」について尋ねた2項目を加えた、合計18項目に対して回答を求めた。その際、すべての質問項目に対して0%から100%の形で回答するように求めた。なお、フィルター項目に誤って回答した133人分のデータを除外し、467人分のデータを最終的に分析に用いた。

3. 倫理的配慮

本研究は、研究機関内にある研究倫理委員会の承認を受け行った。

4. 研究結果および考察

まず、人々がどれくらい正しく／謝って認識しているかを検討するため、18項目それぞれの回答平均と正解との乖離の度合いを算出した。表1は、項目内容ごとに、18項目の具体的内容、回答平均と正解、そして、その差(の絶対値)を示したものである。

18項目すべての問題の正解の平均値は36.06%であり、18項目での回答の平均値は28.64%であり、正解の平均値と回答平均値との間の差は7.42%であった。このことは、人々は、少子高齢化問題や社会問題を大きくは誤解していないことを意味している。ただし、多くの場合、良い方向ではなく悪い方向で誤解していることを意味している。たとえばA1

表1 正解と回答との剥離

項目番号	467人データ	回答平均	正解	標準偏差	差の絶対値
高齢化・高齢者問題	A1 現在の日本では高齢者の()%は一人暮らしである	37.04	15.70	18.90	21.34
	A2 現在の日本では、高齢者の()%は老人ホームに入所している	25.09	4.00	17.24	21.09
	A3 現在の日本で生じた高齢者虐待のうち、養護者によって虐待された被害者の女性は()%である	57.02	77.60	14.34	20.58
	A4 現在の日本での65歳以上の男性のうち、一人暮らしの割合は、()%である	31.43	11.10	17.72	20.33
	A5 日本では、最近生まれた女兒が、80歳まで生きることができるのは()%程度であるとされている	60.74	80.30	23.58	19.56
	A6 現在の日本での65歳以上の女性のうち、一人暮らしの割合は()%である	35.35	20.30	18.51	15.05
	A7 現在の日本の介護保険による要介護認定者数は、総人口のうちの()%を占めている	19.29	4.50	15.67	14.79
	A8 現在の日本での交通事故合計のうち、全年齢層の中で65歳以上の高齢者の運転事故が占める割合は、()%である	40.82	26.30	18.98	14.52
	A9 現在の日本では、65歳以上の高齢者の()%は子どもと同居している	26.63	40.00	15.35	13.37
	A10 50年後の日本では、65歳以上の人口が、全人口の()%を占めると予想されている	51.13	39.90	16.50	11.23
	A11 現在の日本における65歳以上の高齢者は、全人口の()%を占めている	36.60	26.00	14.07	10.60
	A12 現在の日本の65歳以上高齢者の医療費は、国民医療費の()%を占めている	51.32	57.70	18.01	6.38
	A13 現在の日本では、65歳以上の男子高齢者のうち、働いている者の占める割合は()%である	33.57	29.30	18.69	4.27
少子化問題	F1 現在の日本での、一人っ子家族(結婚持続期間15~19年)の割合は、全家族の中で()%である	35.25	15.90	17.27	19.35
	F2 ここ10年間の子どもを持たない夫婦(結婚持続期間15~19年)の割合は、全夫婦の中で()%程度である	24.78	6.40	13.07	18.38
	F3 現在の日本では、総世帯のうち核家族世帯は()%を占めている	53.97	56.40	19.55	2.43
社会問題	S1 現在の日本の完全失業率(15歳以上の働く意欲のある人(労働力人口)のうち、職がなく求職活動をしている人(完全失業者)の割合は、()%である	18.67	3.40	17.71	15.27
	S2 現在の日本の10万人あたりの殺人事件(殺人未遂・予備や自殺教唆・補助をも含む)の発生率は、()%である	10.38	0.70	12.66	9.68
	18項目平均	36.06	28.64	17.10	14.35

の項目では高齢者の全体のうちのひとり暮らしの割合を尋ねたが、高齢者のひとり暮らしの割合は実際には 15.70%であるにもかかわらず、人々は、実際よりも多い(回答平均 37.04%)と誤解していた。また、A2の項目では、老人ホームの入所率を尋ねたが、実際の入所率は 4%であるにもかかわらず、人々は、実際よりも多い(回答平均 25.09%)と誤解していた。

つぎに、項目同士の関連を検討するために、18項目の相互相関を求めた。探索的に相関係数が.3以上の場合に項目間に線を引き、その関係を示したのが図1である。

個々の項目同士の関連の度合いを眺めてみると、18項目のうち、14項目で相互相関が高く、おおまかに重なりのある2つのまとまりを見取ることができる。ひとつのまとまりは、おもに高齢化・高齢者問題に関する項目から構成されていることから、高齢者

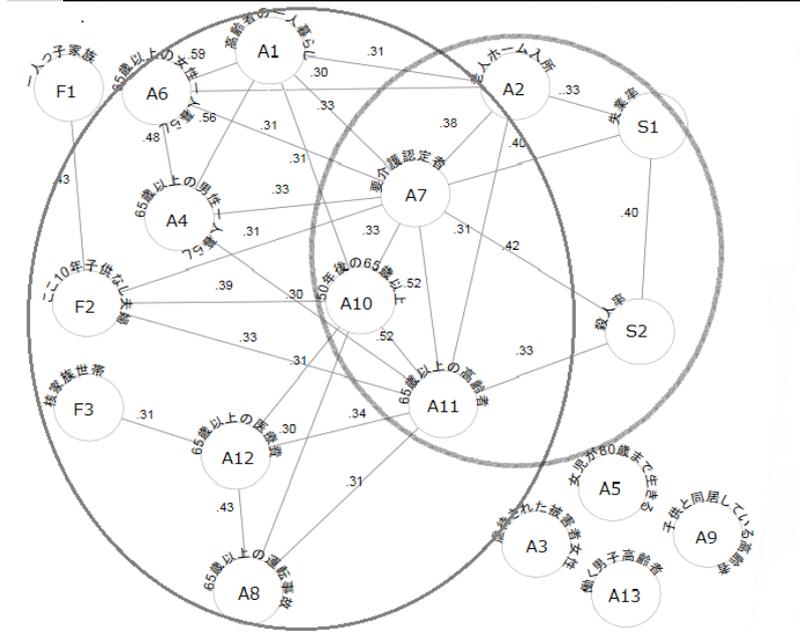


図1 18項目の関連

や高齢化社会に関する誤解=エイジズムを表わしていると解釈できる。もうひとつのまとまりは、高齢化・高齢者問題に関する項目と、現在の失業率や殺人率に関する項目から構成されていることから、現在の社会が実際よりも悪いとする誤解=社会不安を表わしていると解釈できる。

本研究の結果は、高齢者や高齢化社会についての事実に対して個々に誤解が存在しているのではなく、ひとつのより大きな誤解=エイジズムの反映であることを示唆しているとともにその誤解が失業率や殺人率といった社会不安と結びついていることを示唆している。